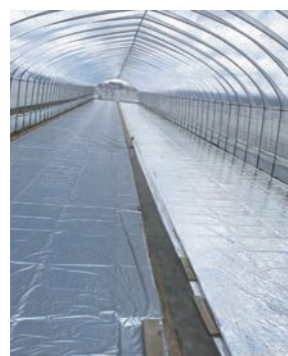


本州太陽シートの効果確認試験

JA新篠津村

篠原 信雄



設置後の様子



育苗中の苗(5月9日撮影)



田植後の様子

試験目的

本州太陽シートの効果確認試験

試験作物 及び品種

水稻

試験資材 及び数量(規格)

本州太陽シート(2.7m×50m) 2枚

慣行資材

シルバーポリトウ

栽培方法

播種日

5月20日

定植日

6月20日

資材使用期間

5月20日～6月20日

試験区面積

270㎡

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

丸まりやすく、シワが寄りやすいため慣行品と比べて使いにくかった。設置後はシート内温度が上がりにくいため苗管理が楽になり作業性が良かった。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

慣行区と生育・収量に差はなかった。試験区の方が苗の生育が均等だった印象。

(3)栽培管理上の優位点あるいは問題点について

【優位点】：シート内温度が上がりにくいため苗管理が楽。

【問題点】：設置・片づけ時の作業性が悪い。

(4)資材の強度・耐久性・崩壊性について

シルバーポリトウに比べて破れやすい印象。耐久性については数年使用して判断する。

(5)保温効果について

高温時は太陽光を遮ることでシート内温度の上昇を防ぎ、夜間の低温時は保温効果があった。

モニター感想

現代農業の記事を見て農協に試験依頼をした。苗の焼け症状は試験区・慣行区(シルバーポリトウ)ともに見られなかったが、試験区はハウス内温度が上昇してもシート内側は温度が上がっておらず、苗管理が楽になるため今後も継続して使いたいと思った。設置・片づけ時に片づけが大変なのでロールにしてほしい。

JA担当者の感想(農産部生産資材課 小松田課長)

育苗箱内の温度上昇を抑制できるため、苗のヤケ症状を緩和に対して有効な資材であると考えている。今回試験した組合員からの評価も高く、また近隣農家も興味を持っており、今後普及率は伸びると推察する。ただし、今年の春先は低温で推移したこともあり、効果が判然としなかったため、引き続き経過を見ていきたい。

今後の使用について

継続して使用したい。

1 高温対策

2 青虫忌避効果

3 調光フィルム

4 シート広幅

5 クリネート

6 マルチ

7 不織布

8 育苗資材

9 酪農資材

10 その他